

教会歳時記



出水神父による父の日の祝福＝6月15日



ランディ神父による母の日の祝福＝5月11日



ヨハネ釘宮銀河さん（東地区）の初聖体がランディ神父により行われました
右は姉の釘宮華蓮さん＝6月29日

編集後記

● 毎年の8月15日の思い出は、現役時代はカーラジオから流れる「ウー」というサイレンに続いて「黙とう」という甲子園で行われている高校野球中継です。夏休みを家族と一緒に信州をドライブするのが定番でした。引退した後は、教会の「聖母の被昇天祭」が恒例となりました。そうした中で、今年の8月15日（終戦と献堂）は、改めて聖母マリアさまの大きなお恵みに感謝する日となりました。中庭にあるマリア像が一段と大きくなりました。ランディ神父さまと岡園さんに感謝します。

● 「でめきん」の歴史は、本誌に掲載した通りです。きっかけは私が勤務していた銀行時代に行内誌の編集を担当したこともあり、教会に転入すると同時に、当時の信者会長であった徳さんに教会報を作りましようと話しかけたのが発端です。それから約半世紀にわたり、私が隔地転勤している間は女性の方々が担当してくださり続いてきました。最近の10年間は「隠れキリシタン」と自称される宮崎名カメラマンの助力をいただきオールカラーの立派な「でめきん」を発行できるようになりました。宮崎さんは写真のみならず、「高山右近の生涯劇」「浦上信徒流配150年祭」のシンボルマークを制作し

てもらいました。右近のマーク入りのTシャツは今でも着ています。

● 「戦後80年」と8月15日にむかって、マスコミ各社は終戦記念特集しています。戦争中から戦後の混乱期を経て80年。私たちの世代は何と幸せな世代であったことかとしみじみ思います。世界中で、特に昨今は戦禍が絶えません。次の若い世代が、先輩たちの教えに耳を傾け、戦争に巻き込まれず、英知を絞って、この混乱を乗り切ってほしいと切に願います。そして私たちの教会が良き後継者を得て、この大和郡山の地で80年、90年、100年と続きますように心から祈っています。（阪井）

● 記念誌の編集に関わってわかったことは、教会は数多くの司祭者に支えられ、信徒の皆さんの絶え間ぬ努力の結果として今日の教会があるということです。また、現在と最も違うのは、多くの子供の声があふれる教会がそこにあったということです。私たちはこの少子高齢化社会を好機ととらえ、将来の教会像を描くことが大切であると思っています。（宮崎）

信徒消息

● 転入

大石高暢さん（東地区）が5月奈良教会から転入

● 訃報

北地区（旧西の京地区）ステファノ西原清隆さんが、6月28日に帰天されました。

東地区（旧中央地区）の西原文子様のご夫君、西原哲雄様が8月9日に帰天されました。ご冥福をお祈りいたします。